長井市小中学校
将来構想検討委員会
検討の経過

長井市小中学校将来構想検討委員会　検討の経過

――　目　　次　――

１．検討の経過の趣旨 1

（１）検討の経過から提言書へ 1
（２）自由闊達な議論の経過を残す 1

２．検討の経過 2

（１）「理想の姿」についての意見 2
①「子供」の理想の姿 2
②「学校」の理想の姿 4
③「子供を支える地域」の理想の姿 7
（２）理想と現実のギャップに関する意見 10
（３）より良い学校・地域をつくるための意見 11
①「学び」に関すること 11
②「学校・地域の環境づくり」に関すること 13

３．おわりに 15

４．検討の経過と提言書との対応 16

１．検討の経過の趣旨

（１）検討の経過から提言書へ

本検討委員会では、学校や学びに関する既成概念を一旦取り払った上で、多様な立場の委員一人ひとりから自由闊達な意見を拾い上げながら将来構想の検討を進めてきました。グループワークでは意見を出しやすくするためにテーマを設け、それに沿って意見を頂いてきました。頂いた意見の中には、学びに関する用語だけでなく、これからの将来を担う子供達への想いが込められた言葉や、自由闊達な意見もありました。また、意見も多様で膨大なものとなったため、これらを集約しつつ、小中学校の将来構想として大局的に取りまとめていく必要がありました。

そこで、本検討委員会では、検討の経過を基に、各委員から頂いた意見の文言の一部は必要に応じて行政や学校教育の用語へ置き換えつつ、テーマで細分化した意見は大局的に集約し、本検討委員会から長井市及び長井市教育委員会への提言とする提言書としました。

（２）自由闊達な議論の経過を残す

本検討委員会の成果は提言書だけでなく、令和３年度から令和４年度の２年間、計５回の会議で行われたプロセスも重要です。各会議における委員一人ひとりの意見、グループワークで挙がってきた膨大な意見は、今後、長井市及び長井市教育委員会がより具体的に学びや小中学校の施設整備の検討を進める際に、振り返るべき参考資料となります。

検討の経過では、検討委員会での委員一人ひとりの自由闊達な意見をそのまま掲載し、提言書に至るまでのプロセスを遡れるよう、経過資料として残すものです。

【参考】…検討の経過の見方（一例）

（ｉ）〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 …集約キーワード

≪参考とした意見≫
◆第〇回会議
・〇〇〇〇については〇〇〇〇が大事
…集約キーワードの参考とした意見

≪関連意見≫〇〇の実現に必要なこと
◆第〇回会議/グループワーク
■〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
・☆8〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
・☆5〇〇〇〇〇〇〇
…その他、関係する意見

■第３回会議/グループワーク概要
・７つのグループで実施
・作業 15 分×3 セッション
①子供の理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か
②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か
③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）
作業後、全員で 20 分の共感タイムを設け★印を付記
共感を集めた意見の凡例は次のとおり

・付箋ワード　≪明朝体≫
共感★7 以上…網掛、太字、下線付き
共感★6～4…太字、下線付き
共感★3～1…下線付き

■第４回会議/グループワーク概要
・４つのグループで実施
・作業 30 分+共感タイム 10 分　を２セッション
①目指す学校、地域の姿（ビジョン）を明確化する
②理想を実現するための具体的な方策を提示する
作業後、全員で共感タイムを設け〇印を付記
共感を集めた意見の凡例は次のとおり

●まとめキーワード（付箋の集約）≪ゴシック体≫
共感〇7 以上…網掛、太字、下線付き
共感〇6～4…太字、下線付き
共感〇3～1…下線付き
〇付箋ワード　≪明朝体≫
共感〇7 以上…網掛、太字、下線付き
共感〇6～4…太字、下線付き
共感〇3～1…下線付き

２．検討の経過

（１）「理想の姿」についての意見

①「子供」の理想の姿

(ⅰ)将来の社会を担う能力がある子供

≪参考とした意見≫

◆第２回会議での意見・講評

・戸沢村では学校を地域の一つとして位置づけし、社会力を育てようとしている。戸沢村で講義をしている門脇厚司先生は社会を担える人を育てることをコンセプトとしてカリキュラムを作っている

(ⅱ)世界と上手につながっていける子供

≪参考とした意見≫

◆第２回会議での意見・講評

・パソコンが先生の代わりをするのではなく、文房具としてちゃんとパソコンを使えるか、世界や友達と繋がっていけるようになることが大事。対面で一人ひとりが向き合って話し合ったり考えたりする場が必要で、そういう場でどう動けるかが大事

≪関連意見≫「世界と上手につながっていける子供」の実現に必要なこと

◆第３回会議/グループワーク

■必要な「力」

・☆6 自分の考えを持ち、ディスカッションできる
・☆2 見知らぬ人でも友好的に話しかけることができる
・☆1 意見を文章に書き、口頭で説明できる
・☆1 生きた英語力を持っている
・☆1 いろんな国の人にあいさつできる
・スターなし…他世界の文化・時事・歴史に関心を持てる

(ⅲ)課題を見つけ、解決への道筋を作る子供

≪参考とした意見≫

◆第２回会議での意見・講評

・長井市で１番注目しているのはスマートシティ。
・スマートシィから得られたデータを分析して、社会の仕組みの変革や新しい事業等のアイディアの基として考えることが学校教育で出来れば、学校と社会のニーズは合うのではないか。

≪関連意見≫「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に必要なこと

◆第３回会議/グループワーク

■必要な「力」

・☆5 自分自身と自分のやりたいことを認知できる
・☆3 試行錯誤をとおしてより良い方向性に気付ける
・☆2 理想を考えることができる
・☆2 失敗してもあきらめないで交渉できる
・☆1 他者を思いやることができる
・☆1 みんなが良くなれる方法や手段に気付ける
・スターなし…いろんな関係を形成できる

(ⅳ)個性を発揮し、社会へ影響を与える子供

≪参考とした意見≫

◆第２回会議での意見・講評

・若い頃から一芸に秀でて才能を開花させ、その分野の第一線で活躍している方は、穿った見方をすれば、得意分野以外については、もしかするとものすごくダメなところがあるかもしれない
・一芸を極め、才能を開花させて唯一無二の存在になるような環境づくりや指導方法等が確立できれば
・長井からそういう子が出てくれば、更に下の世代の子供達も憧れや興味を抱く、という好循環が出てくるのでは
・子供によって得意・不得意があるので、得意なものをいかに伸ばしてあげられるか

≪関連意見≫「個性を発揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に必要なこと

◆第３回会議/グループワーク

■必要な「力」

・☆5 同調圧力に負けない
・☆5 失敗も受け止められる･正解だけを求めないこと
・☆2 人との違いを気にしない
・☆1 自分の個性を認識することができる

・☆1 自分の価値を客観的に認知できる
・☆1 地域の価値と地域人材に気づくことができる
・スターなし…何にでもチャレンジできる、コミュニケーションができる

(v)“ふるさと”とのつながりを大切にする子供

≪参考とした意見≫

◆第１回～第３回での意見・講評

・市外に出てもいずれは地元に帰ってきて欲しい
・長井で教育を受けさせたい、この環境で育てたい、と思ってもらうことが重要
・小学校の頃の思い出は、地元のお祭りや、獅子舞を学校で教えてもらったこと。小学校時代は地元の文化や伝統にそれらに関わり始める大事な時期である
・子供の時代に地区行事やお祭りへの参加など、育った環境の中で長井への意識づけがなされる
・地域への帰属意識に繋がる教育が出来れば
・長井が大好きかどうか、幼少の頃から地域の人と触れ合い、地域の事を詳しくわかっているか
・子供が長井に帰ってくる一番の理由は「親の背中」ではないか
・いくつかの自治体と関わった中で見ると、ふるさとへの愛着は、人と関われるかに拠るところが大きいようだ。世代を超えて地域の色々な人たちと関わって一緒に何かをやること、一緒にやれる条件を揃えていくプロセスがふるさとへの愛着を生む

≪関連意見≫「“ふるさと”とのつながりを大切にする子供」の実現に必要なこと

◆第３回会議/グループワーク

■必要な「力」

・☆1 地域を愛する心を持っている
・☆1 多くの人と関わることができる
・☆1 地域の良さを認知できる
・☆1 地元の良いところ、悪いところを言える
・スターなし…伝統行事を大切にできる、あいさつとコミュニケーションができる

(vi)笑って楽しく過ごせる子供

≪参考とした意見≫

◆第１回・第２回での意見・講評

・特に秀でることがなくても、笑って毎日楽しく過ごしてほしい
・学校に行けない子がいることも身近で感じている。
・1 番は人間関係。人間関係がしっかり出来ていると、明日も頑張れる、つらい事も乗り越えられるので、仲間を見つけていくことが必要
・少子化が進み、限られた人間関係の中だけで生きていかなければならないのは、子供達には苦しいのかなと思う
・子供にとって少々の逃げ場があれば
・人間関係の形成は、学習環境にも影響する非常に重要な点
・子供の数が減り部活動の濃密さが減ったせいか、昔に比べて生徒同士の人間関係が浅くなったように感じる

≪関連意見≫「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に必要なこと

◆第３回会議/グループワーク

■必要な「力」

・**☆5** しなやかな心を持っている
・**☆4** 他者の個性を認めることができる
・**☆4** ストレスを解消できる（ストレスフリー）
・☆3 ストレスに対応し回復できる（レジリエンス）
・☆3 何事も楽しいと思える
・☆3 辛ければ逃げることができる
・☆2 負けたときの潔さがある（グッドルーザー）
・☆1 何事もポジティブに考えられる
・スターなし…他者を認め、受け入れることができる、大変なことがあっても受け止められる（目を背けない）、トラブルを乗り越えることができる、いじめをしないでいられる

②「学校」の理想の姿

(ⅰ)子供の“やりたい！”を実現できる学校

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●11 子供の“やりたい”を実現できる（ⅰ分）※ⅲとⅵに重複
　・○1 やってみたい気持ち１つ１つに対応できる学校
・●7 やりたい事へのチャレンジができる
　・丸なし…やりたいことにチャレンジ、子供の“やりたい”を具現化する、個々の追求テーマに対応できる、子供達のチャレンジをサポートする

≪関連意見≫

◆第３回会議/グループワーク

■「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

・スターなし…自分でテーマを掘り下げる探求型の学習ができる、自分たちで意見をまとめ、先生と調整・交渉する機会がある、異なる意見の中で落としどころを探る活動がある、ICT がフル活用されている

■「個性を発揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

・☆4 やりたいことの選択肢が沢山ある
・☆3 子供のリクエストに応じた授業ができる
・☆2 自分のやりたいことが実現できる環境がある
・☆1 勉強以外でやってみたい事のアンケートの機会がある
・☆1 個人テーマの追求学習の機会がある
・☆1 子供がやりたいことを実現することができる
・☆1 プログラミングを突き詰めることができる
・☆2 ある分野のトップである人や物事に触れる機会がある（No.１に触れる）
・☆1 子供の意見に幅広く対応できる相談窓口がある
・☆1 先生の考え方が進化している
・スターなし…学びの現場と学校教員に余裕がある

◆第１回～第３回会議

・学校は、一人ひとりの好きなこと、得意な分野が生かせる場所であって欲しい
・子供が自分の未来を考え、夢を実現していく自由な発想が出てくるよう、子供達の意見を聞けるような場があれば
・勉強や余暇に費やせる時間は都会と田舎では差がある。進学などに際し、子供が伸び伸びと教育を受けられる予算を

(ⅱ)“主体的な学び”にチャレンジできる学校

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 新授業のある学校（ⅱ分）※ⅵに重複
　・○1 子供の個性を伸ばす
　・丸なし…今日のニュースで話し合い、学べる環境がある
・●1 子供が活きる学校（ⅱ分）※ⅵに重複
　・○7 チャンスがありチャレンジできる
　・○2 やりたいことがチャレンジできる学校
　・○2 チャンスにあふれた学校
　・○2 起業家精神を養える
　・丸なし…学びの発表の場がある学校
・丸なし…子供を活かす学校
　・○5 可能性を広げる
　・○4 興味のあることを学べる
　・○2 探究する
・丸なし…子供の主体性がある
　・丸なし…主体的に提案が出せる、子供達でルールや授業が作れる、子供が課外活動を発表できる、子供達が自分の考えを表現できる

≪関連意見≫

◆第１回～第３回会議での意見・講評

・自分がなすべきことを見出すためには、探求型の学習が有効ではないか。子供に対しての内面的なサポートもしっかりとすれば将来に繋がる。

(ⅲ)多様で専門的な学びを選択できる学校

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●11 子供の“やりたい”を実現できる（ⅲ分）※ⅰとⅵに重複
　・丸なし…やりたい事の選択肢が沢山あり実現できる学校

・●10 子供が学びを選べる
・丸なし…一日の半分は学びを選択できる、課外授業を選べる、学びを選べる
・●5 多様性と専門性（iii分）※ⅴに重複
・丸なし…様々な分野の第一線にいる方から学ぶ機会、日本や世界で活躍する人からオンラインで話を聞ける機会
・●3 子供個人のペースでゆっくりじっくり学べる（iii分）※ⅳに重複
・○3 学校の独自性・選択制で特定の得意分野がある学校
・単独/○1 他の学校に行って学べる

≪関連意見≫
◆第１回～第３回会議での意見・講評
・子供達の選択肢を広げていくために、先進的な情報や技術に触れる機会も大事
・ハイレベルな技術や知識を持った専門家の話を聞ける場や、大学講義のような授業が増えれば

(ⅳ)個人のペースでじっくり才能を伸ばせる学校

≪参考とした意見≫
◆第４回会議/グループワーク
■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫
・●3 子供個人のペースでゆっくりじっくり学べる（ⅳ分）※iiiに重複
・○3 年齢に拠らない習得優先型の進級システム

≪関連意見≫
◆第１回～第３回会議での意見・講評
・才能を見つけ、得意なものを伸ばし、育ててあげる教育を。また長井の代表的な何かで子供が出来るものがあれば
・文科省では、発達障がいと共に優れた才能を持つお子さんに焦点を当てて、障がいに対するケアと同時に併せ持った才能をケアしていく 2E（トゥーイー）教育を進めていく

(ⅴ)世界とつながり国際感覚を育む学校

≪参考とした意見≫
◆第４回会議/グループワーク
■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫
・●5 多様性と専門性（ⅴ分）※iiiに重複
・丸なし…外国人の生徒がいる、色々な言語が学べる
・●1 世界とつながる学校
・○1 英語力が高い
・丸なし…国際感覚を身に着ける、グローバル

≪関連意見≫
◆第３回会議/グループワーク
■「世界と上手につながっていける子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント
・☆3 ICT を使って外国との交流・関係構築ができる
・☆1 作文が日常的に行われる
・☆1 ディベートが日常的に行われる
・☆1 世界の人の生活ぶりが学べる
・☆1 ホームステイができる
・スターなし…英語だけで過ごす時間がある（English only day time）、外国に関わる学び・体験がある、外国人と交友関係がある人から話を聞く機会がある、海外文化を動画で学べる、外国に関する学びを発表・実践する機会がある、読書会が盛んにある（ビブリオバトル）

◆第１回～第３回会議での意見・講評
・英語で日常会話が出来るレベルに到達するような教育・予算付けが出来れば

(ⅵ)安心感と自己肯定感をみんなで高め合う学校

≪参考とした意見≫
◆第４回会議/グループワーク
■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫
・●11 子供の“やりたい”を実現できる（ⅵ分）※ⅰとiiiに重複
・○1 失敗なんて当たり前！な学校
・●8 自己肯定感の高い学校
・○1 気持ちを言語化するトレーニング
・丸なし…良い所を言えて伸ばす、これが好き！と言える、子供に考えさせる、教科だけでなく得意なことを伸ばせる
・●5 新授業のある学校（ⅵ分）※ⅱに重複
・丸なし…失敗学の授業
・●3 安心感が高い学校
・○1 自分の居場所と安心感が満ちている、
・丸なし…子供が自分の意見を言いやすい環境、子供が先生になり子供同士で学び合える
・●2 安心づくりがなされている
・丸なし…個性を大切にできる、みんなで良いところを褒め合う、違いを認められる、ジェンダーで悩む人も平等、困っていることを相談でき、困っている人に気づける、支援が必要な子供がトレーニングで不安なく過

ごせる
・●2 自由な雰囲気の学校
・丸なし…自由に発言できる、自発的に行動する、アイディアをもらう・提案できる、この場所があるから行きたい学校、いつも仲間がいる
・●1 子供が活きる学校（ⅵ分）※ⅱに重複
・○1 校則が時代に合っている

≪関連意見≫
◆第３回会議/グループワーク
■「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント
・☆4 子供の生活時間に余裕がある
・☆1 市内の学校同士で交流する機会がある
・スターなし…道徳の時間で心を耕す機会がある、インクルーシブな道徳授業が盛ん、児童会・生徒会が盛ん、いじめ解決のための協働思考の機会がある、他者から評価をもらい個人の良さの見える化の機会がある、障がいのある人の話を聞く機会がある、中１ギャップへの対策がなされている
◆第１回～第３回会議での意見・講評
・少子化で限られた人間関係の中で生きていかなければならないのは子供達には苦しいかも。区域外の学校にも通えれば、子供にとって少々の逃げ場になる

(vii)学校の中に“学校じゃない場所”がある学校

≪参考とした意見≫
◆第４回会議/グループワーク
■学校の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫
・●8 学校の中に学校じゃない場所がある
・○1 教員以外の人が沢山いる
・丸なし…校舎の中に小さなコミュニティがある、学童以外の子供も自由に集まれるフリースペースがある
・●1 遊びのある学校
・丸なし…遊びを科学する、友達との共通の楽しみ
・●1 校外授業がある
・○1 子供と一緒に大人も学べる
・丸なし…学校外でも学びを求める、充実した課外活動ができる
・丸なし…地域交流のある学校
・丸なし…地域の人といつでも触れあえる、地域住民が出入りする
・単独/丸なし…地域学習で地域の方々と仲良くなれる環境、繋がる力が高まる

≪関連意見≫
◆第３回会議/グループワーク
■「“ふるさと”とのつながりを大切にする子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント
・☆2 地域の先生に授業をしてもらえる
・☆2 総合学習等で地域の方が先生になってもらう
・スターなし…地域学習の機会がある、長井の歴史を学ぶ機会がある、長井の公共施設を巡る機会がある、地区・まち歩きの機会がある、校外学習の機会が多くある、地域の良さを再発見する機会がある、クラブ活動等で地元の産業を取り入れる機会がある、幼児施設・福祉施設等へ訪問する機会がある、授業参観の機会がある、PTA 活動が盛ん、休日の部活動はできるだけ減らす、端末を使って地域クイズ巡りの機会がある
◆第１回～第３回会議での意見・講評
・学校にコミセン等の他施設を入れて学校が複合施設化した場合、地域の方との交流など、新たにどういう展開が出来るのか色々考えている。
・校内に地域住民との交流スペースがある学校の事例に興味を持った。
・高齢者でも気軽に使用できる場所が学校内にあるとありがたい。
・幼稚園の複合化はとても良い。ステップアップ先が目の前にあり、子供達はワクワクする。

③「子供を支える地域」の理想の姿

(ⅰ)子供の得意なことを伸ばしてくれる地域

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■地域の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●15 得意なことを伸ばす地域

・丸なし…特技を持つ子供の発表の機会、自分の得意分野を教えてくれる先生が地域にいる、子供たちのやりたいことを発信できる

≪関連意見≫

◆第３回会議/グループワーク

■「個性を発揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

・☆4 子供が先生になる機会がある

・☆3 子供達が主導するイベントの機会がある

・☆1 学校での学びを支援できる専門家がいる

・スターなし…子供の放課後時間を活用できる、学校とは異なる活動やチャレンジの機会がある、仲間づくり･協力体制のロールプレイができる、高校生との活動や繋がる機会がある

【経験・体験】

・☆1 障がい等に関係なく公平にチャレンジできること(G3)

・☆1 有償ボランティア体験(G3)

・スターなし…才能を大人が認めて褒めてくれる成功体験(G3)、自分を理解してくれる人(G3)

【他者との関わり】

・☆2 同質・同水準からの脱却(G3)

・スターなし…個性が似た者同士での集まり(G3)、安全なSNS・子供だけのコミュニティ(G3)、学校以外での先生(G3)

(ⅱ)地域主体の課外授業が盛んな地域

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■地域の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 地域主体の課外授業がある

・丸なし…課外活動を選べる、子供対象のイベント等、充実した課外活動ができる、子供の社会参加やキャリア経験、伝統行事を守っていけるような地域に

≪関連意見≫

◆第３回会議/グループワーク

■「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

・☆2 グループで１つのものを作り上げ、地域の方から評価してもらう機会がある

・スターなし…縦･横のつながりによる協働作業や学びの機会がある、地域での福祉活動

【経験・体験】

・☆3 他者との交流での失敗・再チャレンジ体験(G2)

・☆3 他者と関わることが苦手な人もいることを知ること(G2)

・☆2 新分野の知識･自分に無い能力の吸収(G2)

・☆1 苦しさを他者と共に味わう体験(G2)

【他者との関わり】

・☆1 子供がそうなるために親も気づきのある人であること(G2)

◆第１回～第３回会議での意見・講評

・まちなかを活用した教育の在り方も方法の１つとしてあるか。

・長井市内の会社・施設を見学し、本物を見る、触れる機会はとても大事。

・市内の既存施設でも子供達の活動が出来るのではないか。結果、地域に開かれた学校の実現にも通じるのではないか。

(ⅲ)顔なじみの交流と絆がある地域

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■地域の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 顔なじみで絆のある地域

・丸なし…子供の顔と名前がわかる、誰もが子供に関わる、子供が雑談できる、いつの間にか余所者も顔なじみになる、子供の顔を覚えてもらい地域の人との関わりを持つ

・●2 交流が盛んな地域

・丸なし…公民館の会議に子供が参加、気軽に集まれる場、交流できる場と人がいる、地域内ホームステイ、高齢者と子供が同じことをする

≪関連意見≫

◆第３回会議/グループワーク

■「“ふるさと”とのつながりを大切にする子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

・☆4 子供会行事が盛ん
・☆2 近隣の子供会が合同で行事を行える
・☆2 お祭りへの参加が積極的である
・☆1 伝統行事の継承で広く他者と関わる機会がある
・☆1 イベントやお祭りに参加できる環境づくりが上手い
・☆1 中学生の行事への参加が多い
・☆1 子供会で卒業した先輩と交流できる
・☆1 地名発見スタンプラリーがある
・☆1 大人たちの積極的な飲み会がある
・スターなし…生涯スポーツ・大会への参加が盛ん、子供達がボランティア活動できる機会がある、活動を継続していくために慣習を見直すことができる、子供達が職場見学や体験学習をさせてもらえる機会がある、獅子舞などの発表会の機会がある、祭りの動画配信等、情報発信がなされている、廃品回収などの子供会行事が盛ん、地元の祭りへの参加が多い、地区の運動会への参加が多い、世代間交流の機会が多い、遊び場などの環境が整っている、住民みんなで子供達を見守る

【経験・体験】

・☆2 地元の自慢の宝物との触れ合い(G4)
・☆2 お盆等に顔を合わせること(G5)
・☆1 幼少期から地域活動に関わる経験(G4)
・☆1 世代を超えた交流(G4)
・☆1 子供会への参加体験(G4)
・☆1 遊ぶ場所を知っていること(G5)
・スターなし…地区住民との交流で受け入れてもらった自己肯定感(G4)、プラス思考で良いところを伸ばすこと(G5)、行事への参加(G5)

【他者との関わり】

・☆6 子供たちの名前を覚えること(G5)
・☆3 子供のいない世帯からも協力を得られること(G4)
・☆2 保護者の協力体制が整っていること(G4)
・☆2 親同士が知り合いであること(G5)
・☆2 子供が地域に愛されていること(G5)
・☆1 地域活動への積極さのための親の参加(G4)
・スターなし…どこの家の子供か大人が知っていること(G5)、子供が参加するための親の協力(G5)、親の収入の安定(G5)

◆第１回～第３回会議での意見・講評

・ここに住んで子育てをし、子供達に色々な事を教え、子供達と沢山関わる場所を。
・長井で育った子供が長井に戻ってきたいと思える仕組み作りを
・地元に戻ってきた時のやりがいも必要
・コミュニティ、ネットワークの質をどうやって上げていくか、人同士の繋がりを質的にどう高めていくか

(iv)子供一人ひとりを認め、受け皿となってくれる地域

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■地域の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●4 子供を認め受け止めてくれる受け皿となる地域
　・〇4 地域の大人に認められる場所
　・〇1 子供の声を受け止められる
　・丸なし…子供の活躍の場がある、地域に不登校の子供の受け皿がある、子供に声と目をかけられる
・●2 安心づくりがなされている
　・丸なし…みんなで良いところを褒め合う地域、安心して遊んで経験を蓄積できる、楽しく息抜きができる
・丸なし…見守りが多い地域
　・〇4 頼れる大人が身近にいる
　・丸なし…子供達を温かく見守る、子供を思いやる
・単独/〇1 勤労とマネー獲得が体験できる

≪関連意見≫

◆第３回会議/グループワーク

■「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

・☆1 様々な方の職業について話を聞く機会がある
・☆1 不登校の子供を受け入れる活動がある
・スターなし…校外ボランティア活動が盛ん、市内の子供会同士で交流する機会がある、異世代との交流が盛ん、

【経験・体験】

・☆9 親に愛されていること(G6)
・☆7 自分の行動･作品等について沢山褒められること(G6)
・☆7 沢山の失敗経験(G7)
・☆5 他者から認められる経験(G7)
・☆4 お世話になった体験から世話する側への成長(G6)
・☆1 地域行事に主体的に関わること(G7)

・☆1 多様な考え方を知ること(G7)
・スターなし…親や周囲に認められていると思うこと(G6)、自己肯定感･有用感(G6)、喜怒哀楽の経験(G6)、自分たちの生活の質は自分たちで高めようとすること(G6)、同じ目的を持つ仲間と活動した達成感(G6)、みんなが楽しいことが自分も楽しいと思えること(G6)、学校以外の学び(G6)、家族が一緒に過ごせること(G7)、大人と一緒に１つの事業を体験(G7)

【他者との関わり】
・☆3 安心して言いたいことが言えること(G6)
・☆1 学校だけでない人間関係(G7)
・スターなし…親にも心の安定・余裕が必要(G6)、子供たちの周りが笑顔で見守れること(G7)

(ｖ)長井の文化・行事・遊びを通し、オープンで楽しい交流が出来る地域

≪参考とした意見≫
◆第４回会議/グループワーク
■地域の理想の姿　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫
・●2 遊び場の多い地域
・丸なし…子供が安心して遊べる場所がある、子供の居場所がある、子供の声が聞こえる
・●1 参加型の地域
・○3 世代間の交流・繋がりのある地域
・丸なし…文化を知り触れ合える地域
・●1 楽しい行事の多い地域
・丸なし…子供が参加できる行事が沢山ある、地域行事に参加、外遊びのリバイバル、地域の楽しみの共通認識がある
・単独/丸なし…子供達と挨拶し合える地域、世代を超えて交流できる、学校と地域行事の共有、近くの会社も一緒にする
・丸なし…オープンな地域イベント・お祭り、フラットな地域

≪関連意見≫
◆第３回会議/グループワーク
■「世界と上手につながっていける子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント
【活動】
・☆3 海外の方も地域行事に参加できる
・☆2 地域の外国人との交流会がある
・☆1 同世代の外国の子供との交流や遊ぶ機会がある
・☆1 インバウンドの滞在型観光に参加できる
・スターなし…観光のイベント・ツアー化
【経験・体験】
・☆1 海外の料理を食べたり作ったりすること(G1)
◆第１回～第３回会議での意見・講評
・伝統的な文化をどうにかして残す仕組み作りを
・今までの取り組みの中で、本当に必要だったもの、削減・縮小しても良さそうなものの吟味が必要
・地域活動については、削減やコンパクト化も必要
・役割が特定の人に集中しがちで、人材のバランス調整は課題
・長井市民全体でまちづくり等について考えるような機会があれば
・地域のコミュニティをもっと連携させたい
・コミセンの運営協議会に学校関係者が加われば一緒に議論出来るのでは。ただし先生は異動で入れ替わるのが課題
・便利さだけを求めないという価値観を持った人も居る。長井だから経験できるものも考えて欲しい。
・長井は全体的に情報の発信がもう少し上手く出来れば良いのにと思うことがある
・情報は、自らが発信することにより求める情報が集まってきて、物事が動き出す面がある

（２）理想と現実のギャップに関する意見　…　理想に至るまでの懸念や課題

（ⅰ）教職員の人手が足りない

≪参考とした意見≫

◆第１回～第３回会議での意見・講評

・学校・教職員の余裕が必要

・特殊な学びは教えられる先生がいない

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●2 じっくり興味を活かす（(3)①のⅰ、(3)①のⅳ、(3)①のⅰに重複）

〇3 先生を増やす

・丸なし…選択幅の拡大と教員数の増員

（ⅱ）特殊な学びは今のカリキュラムでは実現が困難

≪参考とした意見≫

◆第１回～第３回会議での意見・講評

・特殊な学びの時間は今の小中学校のカリキュラムではカバー出来ない

・文科省が管轄している教育の枠組みから、敢えて逸脱していくような挑戦が求められていると感じる

（ⅲ）子供たちの選択と多様性を後押しする場所やマンパワーが足りない

≪参考とした意見≫

◆第４回会議での意見・講評

・選択と多様性を次のステップに進める場をどうやって設定するか、それを実現するためのマンパワーをどうやって集めるか

≪関連意見≫

◆第３回・第４回会議/グループワーク

■協力者として想定される方

・地域内協力者（地域の役員、伝統文化の指導者、高校生、高齢者等）

・地域外協力者（都市部の若者、ボランティア、外国人または接点のある関係者）

・協力企業･団体（NPO、クラブチーム、青年団体等）

・著名人協力者（専門家、経営者、芸能人、YouTuber 等）

・ボランティアを求めている団体、施設

・マッチングさせるコーディネーター

（３）より良い学校・地域をつくるための意見　…具体的な取組

①「学び」に関すること

(ⅰ)子供が主体性をもって選べるカリキュラムづくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム（(3)①のⅲ、(3)②のⅰと重複）

・丸なし…必修科目と自由選択科目のあるカリキュラム

・●2 じっくり興味を活かす（(2)のⅰ、(3)①のⅳ、(3)②のⅰに重複）

○3 魅力あるカリキュラムを作る

○2 話を聞きたい人・職業に話を聞きに行く（オンラインでも）

○1 小学校から単位制・選択制

○1 長井市以外からの受け入れ

・丸なし…小中学生からのホームステイ学習、繋がる力を身に着けるために楽しく始めるコミュニケーショントレーニング

・丸なし…カリキュラムの変更（※事務局補足）（(3)①のⅳと重複）

○4 選択できる科目を作る・増やす

・丸なし…地域の文化を生かした特色ある授業

・丸なし…“やりたい”を実現できる授業・取組（(3)①のⅴと重複）

・丸なし…子供の意見・回答を否定しない、答えが複数ある授業

(ⅱ)専門性へのチャレンジや活動の場づくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 チャレンジ

○2 子供だけでチャレンジ制作プロジェクト

・丸なし…専門性へのチャレンジ、子供が参加したいと思える活動の場を増やす

(ⅲ)幼保連携や小中学校の９年間を見通した教育計画

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム（(3)①のⅰ、(3)②のⅰと重複）

・丸なし…5・6 年生から中学校へ通う緩やかな小中一貫教育

・●4 幼保小中連携

・丸なし…小中学校の 9 年間を見通した教育計画と 6・3 制の見直し、幼保小一元化

≪関連意見≫

◆第１回会議/小中一貫教育等の講話を受けての意見

■小中一貫教育に対する期待・懸念

【○期待】

・子供の発達段階に応じた教育は大事。

・「中１ギャップ」は親子共に不安。これが解消されるのはとても良い。

・交友関係が継続できる小中一貫教育はとても良い。

【△懸念】

・「中１ギャップ」の緩和にはなるが、教職員の負担は増えそう。

・「中１ギャップ」が緩和される反面、新たな希望、成長の節目をどう作るか。

■学年段階の区切り

・6・3 制と 4・3・2 制のどちらが良いかは難しい。

・長井でも 4・3・2 制の導入もありだな、と思う反面、教職員は人手不足になるのでは。特に小学校の先生は学級担任制で非常に大変だと思う。

・多くの子供が「中１ギャップ」でつまずいているので、小中一貫校ができたらいいなと思うが、6・3 制か、それ以外が良いかはそれぞれ利点・欠点があるので判断が難しい

■長井小卒業生の南北分離

・長井小は中学校進学で南北に分かれ、小学校時代の同級生と一緒の活動が出来なくなる、仲の良い友人と離れて落ち込む、といった問題あり。

(ⅳ)ICT やオンラインを活用した学び

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　　・まとめワード≪ゴシック体≫　　・付箋ワード≪明朝体≫

・●2 じっくり興味を活かす（(2)のｉ、(3)①のｉ、(3)②のｉと重複）

〇1 オンラインで他校の授業を受けられる

・丸なし…オンラインシステムの構築と強化

〇2ICT 学習・オンライン学習の強化

・丸なし…オンライン授業の機会を増やす、オンラインでの学びを発表する機会

・丸なし…カリキュラムの変更（※事務局補足）（(3)①のｉと重複）

〇2 オンライン授業で登校日を減らす

(ｖ)子供のやりたいことを拾い上げる取組

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワーク

■具体的な取組　　・まとめワード≪ゴシック体≫　　・付箋ワード≪明朝体≫

・丸なし…“やりたい”を実現できる授業・取組（(3)①のｉと重複）

・丸なし…子供による「やりたいこと会議」、大人による「やりたいこと応援事業」、投票で１位になったものから実現させていく取り組み

②「学校・地域の環境づくり」に関すること

(ⅰ)地域の先生や外部の専門家による課外授業等への協力体制づくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

- ●10 地域の先生
  - ・丸なし…地域人材の活用、地域の先生に沢山参加してもらう、地域人材バンク、保護者会 OB、コミュニティ・スクールへ地域の専門家に協力してもらう
- ●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム（(3)①のⅰ、(3)①のⅲと重複）
  - ・丸なし…課外授業の地域への移行
- ●2 じっくり興味を活かす（(2)のⅰ、(3)①のⅰ、(3)①のⅳに重複）
  - ○2 教員免許が無い方でも講師として授業を持ってもらう
- ●2 人材の確保
  - ○2 専門知識のある先生が学校を自由に回る
  - ○2 地域を超えた支援者との繋がりを増やす
  - ・丸なし…先生が必要、外部講師を招く、地域人材バンク、外国語コミュニケーション力のある先生、地域の学習と先生を増やす
- ●1 学校と地域の連携を図る体制づくり
  - ○1 学校との連携組織をつくる
  - ・丸なし…子供達の“やりたい”を拾い上げる体制、地域で協力し合う
- ・単独/○3 職人技の価値付けとそれに見合う報酬

(ⅱ)子供と大人が安心して絆を育めるコミュニティスペースづくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

- ●9 子供のための（＋大人も）安心と絆を育む居場所づくり
  - ・丸なし…空き教室を活用してコミュニティスペースをつくる、コミセンと学校の共有スペースをつくるか一体化した建物とする、学校内に第３の居場所（サードプレイス）と人間関係をつくる、学校とコミセン・児童センター・学童クラブの複合化、子供達が放課後を自由に過ごせる、教室等を開放し宿題等しながら親の迎えを待てる、地域の人に場所を開放できる人を募る（お店など））
- ●7 安心感のある居場所・受け皿づくり
  - ○3 コミセン内に不登校・学校に行けない子供を受け入れる場所がある
  - ○1 学校とコミセンが近くにあり子供達が自由に往来し学べる
  - ・丸なし…子供の流れを学校から地域へ、地域に開けた学校、地域の方々も利用でき子供達と触れ合う場所
- ●5 居場所づくり
  - ○3 様々な施設を効果的に活用
  - ・丸なし…学童保育時間の場所づくり、自治公民館の活用
- ●5 行事から変革
  - ・丸なし…地域行事の選択と集中、低学年からの親子参加型のイベントの提供、コミュニティ・スクールの充実
- ●2 学校が拠点
  - ○2 学校を中心としたコミュニティの場の確保
  - ・丸なし…学校に学童・コミセン・児童センターを
- ・丸なし…ルールづくり
  - ・丸なし…学校の施設管理方法の整備
- ・丸なし…学校・地域の目的の明確化

(ⅲ)地域が主体となった子供のチャレンジの場や放課後の受け皿づくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

- ●7 地域の主体性や子供のチャレンジの受け皿となるマンパワー・人づくり
  - ○2 地域内・外の人材を繋ぐプラットフォーム・コーディネーター
  - ○1 地域に居る先生を見つける
  - ○1 地域サポート力の体制化・組織化
  - ・丸なし…地域を組織化して放課後の受け皿をつくる、課外活動の推進体制、地域教育力の向上

(ⅳ)地域の中で一貫して学べる環境づくり

≪参考とした意見≫

◆第４回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組　・まとめワード≪ゴシック体≫　・付箋ワード≪明朝体≫

・●3 一貫校・複合化
〇6 コミセン・地域との学びの場となる複合化
〇1 就学前から高校まで関わる

≪関連意見≫

◆第１回会議/小中一貫教育等の講話を受けての意見

■施設一体型小中一貫教育について

【〇期待】

・施設一体型の小中一貫教育は理想形と思う。現時点では叶わないが、20 年後、30 年後を考えた際、必然的に集約化の方向に向かわざるを得ないのでは。

■学校統廃合・大規模化

【△懸念】

・小規模校は幼少期から先生や友達としっかり関われる。大規模校ではそれが出来なくなるのではないか。
・地域に小学校が無くなってしまうと、地域文化の継承や郷土愛の醸成が困難。既存の小学校は維持して頂きたい。

３．おわりに

本検討委員会において、廣田貢先生、江間史明先生のお二人から、講評の際に頂いた言葉を紹介します。

■「対話の風土」をとおして「志」が集まる学校や地域づくりを（第４回会議・講評）

『誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子どもたちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供達が自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿。』

学校や地域づくりをしていく際には「志」が大事です。「コミュニティ・スクール」や「地域コミュニティ」という言葉がありますが、「コミュニティ」には「支援」という意味もあれば、「同じ目的を持った集まり」という意味もあります。これからの長井市には「志」が集まる学校や地域をつくっていくことが必要です。そして、どんな子どもたちを育て、どんな学校・地域をつくっていきたいのか、ビジョンをみんなで共有し、具体的な行動に移していくことが大切です。

「志」が集まり、具体的な一歩を踏み出す際に必要となるのが、目標・ビジョンを共有し、行動していくための「対話の風土」をこの長井市につくることです。今ここにいる皆さんには、地道な対話の積み重ねが「対話の風土」に繋がることを意識していただきたいと思います。将来構想検討委員会の取りまとめと、この先の具体的な一歩に繋がるよう、お話させていただいたところです。

【長井市学校教育アドバイザー】

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部　計画課　整備計画室長　　廣田 貢 様より

■「雲を掴むような話」の中で「雲をどう描くか」（第２回会議・講評）

本検討委員会の冒頭、長井市教育委員会 土屋正人 教育長 からは、「この将来構想検討委員会は、雲を掴むような話をしてもらうことになる」とのお話がありました。この将来構想は白紙からスタートしているので、確かにそういう面はあるのですが、本検討委員会で問われているのは「雲をどう描くか」です。雲だから掴めないのではなく、その雲をどう描いていくのか、議論を進めていく取り組みであると思います。こういった取り組みは、自治体だけでなく企業でも行われており、まさに今、これから自分たちのミッションをどうしたらいいのか、どういうふうに考えていくのか、という議論がなされています。それは結局「雲をどう描いて形にしていくのか」という議論であると思います。こういう議論をしていかないと、新しい価値は生み出すことは出来ないだろうな、と思っております。この将来構想も、出来上がってしまえば、外から見ると「ああそういう事なのか」と分かりますが、作っている最中の当事者にしてみれば「見えない所を少しずつ見える化していく」という取り組みや議論であると思います。

【長井市小中学校将来構想検討委員会副委員長】

山形大学教職大学院　教授　　江間 史明 様より

４．検討の経過と提言書との対応

検討の経過と、提言書との対応は次のとおりです。

【検討の経過】

①「子供」の理想の姿
（ⅰ）将来の社会を担う能力がある子供
（ⅱ）世界と上手につながっていける子供
（ⅲ）課題を見つけ、解決への道筋を作る子供
（ⅳ）個性を発揮し、社会へ影響を与える子供
（ⅴ）“ふるさと”とのつながりを大切にする子供
（ⅵ）笑って楽しく過ごせる子供

理想の実現に必要な力

授業・活動　他者との関わり　体験・経験

②「学校」の理想の姿
（ⅰ）子供の“やりたい！”を実現できる学校
（ⅱ）“主体的な学び”にチャレンジできる学校
（ⅲ）多様で専門的な学びを選択できる学校
（ⅳ）個人のペースでじっくり才能を伸ばせる学校
（ⅴ）世界とつながり国際感覚を育む学校
（ⅵ）安心感と自己肯定感をみんなで高め合う学校
（ⅶ）学校の中に“学校じゃない場所”がある学校

③「子供を支える地域」の理想の姿
（ⅰ）子供の得意なことを伸ばしてくれる地域
（ⅱ）地域主体の課外授業が盛んな地域
（ⅲ）顔なじみの交流と絆がある地域
（ⅳ）子供一人ひとりを認め、受け皿となってくれる地域
（ⅴ）長井の文化・行事・遊びを通し、オープンで楽しい交流が出来る地域

理想に至るまでの懸念や課題

具体的な取組

①「学び」に関すること
（ⅰ）子供が主体性をもって選べるカリキュラムづくり
（ⅱ）専門性へのチャレンジや活動の場づくり
（ⅲ）幼保連携や小中学校の９年間を見通した教育計画
（ⅳ）ICT やオンラインを活用した学び
（ⅴ）子供のやりたいことを拾い上げる取組

②「学校・地域の環境づくり」に関すること
（ⅰ）地域の先生や外部の専門家による課外授業等への協力体制づくり
（ⅱ）子供と大人が安心して絆を育めるコミュニティスペースづくり
（ⅲ）地域が主体となった子供のチャレンジの場や放課後の受け皿づくり
（ⅳ）地域の中で一貫して学べる環境づくり

提言書としてのまとめ

理想等の集約

取組等の集約

【提言書】

●現状　長井の子供を取り巻く社会／児童生徒数の推移／学校施設の状況
●課題　現状を踏まえた課題／これからの学校をどうするか

●捉えるべき視点

○子供の学びのあり方
ⅰ）「長井の心」を拠り所にして
ⅱ）学びのこれから

○学校のあり方
ⅰ）ICT の活用と多様化への対応
ⅱ）地域の力を学校へ

①目指す理想の姿

【目指す子供像】
●不確実で正解がない時代だからこそ、子供たちが安心して何事にも挑戦できる学校であってほしいと願います。たとえ失敗を経験したとしても、仲間と支え合い、再び挑戦する子供たちであってほしいです。その積み重ねが未来を切り拓く力となり、将来の長井市を支える力となっていきます。

【私たちが求める学びの場】
●お互いが一人ひとりの個性を大事にして、理解し合えれば、安心感が生まれます。
●子供達自身が安心して生活し、自らの興味・関心をもとに主体的に多様な学びに取り組めるようになれば、理想とする学校に近づけると考えます。
●これは学校だけが取り組むものではなく、実現のためには地域の力も不可欠です。
●授業への地域人材による協力、伝統行事やイベントへの子供たちの参加があり、活動を通して育まれるたくさんのコミュニケーションや絆が、子供も地域の人も元気づけます。
●このような活動の場所となる学校施設は、学校と地域が子供を縁として密接に関わる場所であることが望ましいと考えます。
●長井市の学校は、真に地域に開かれた場所として今後も整備・維持されていくことが期待されます。

②理想の実現のために

（ⅰ）未来を切り拓くための確かな学力としなやかな心を育む

【具体的な取組の方向性】
●一人ひとりの個性や挑戦することを大事にする教育
●確かな学力を身に付けるための個別最適な学びと協働的な学び
●多様性への理解や共存する心を育む教育
●多様で専門性のある学びや探究的な学びの実践
●世界とつながり、交流を深められる学び

（ⅱ）学校と地域が共に子供を育む環境を創る

【具体的な取組の方向性】
●地域の先生による地域学習や学校支援ができる地域
●子供の興味・関心や得意なことを引き出し、伸ばせる地域
●子供と地域の大人が安心して交流できる学校づくり
●学校と地域にある公共施設の一体的な整備
●地域にある小学校から中学校まで一貫して学べる環境づくり

●これからの学校施設整備
①小学校は地域の核
②取組の方向性に沿った学校施設整備